

対象国の条件: ポリオ流行国・ハイリスク地域、麻疹・風疹流行国が優先される。

研修コース番号: J1804221

案件番号: 1884430

主分野課題: 保健医療/予防接種

副分野課題: 保健医療/その他感染症

使用言語: 英語

案件概要

ワクチン予防可能疾患コントロールの評価のためには、適切なサーベイランスと精度の高い実験室診断が不可欠である。実習を主体とした研修コースにより、WHO等により標準化されたワクチン予防可能疾患の基本的実験室診断技術・精度管理手法を習得する。世界的および当該地域における実験室ネットワークの技術レベルの向上により、ポリオ・麻疹・風疹を含むワクチン予防可能疾患の効果的なコントロールに貢献する。

目標/成果

対象組織/人材

【案件目標】
 実習を主体とした本研修コースへの参加により、研修参加者はWHO実験室ネットワーク等により標準化されたワクチン予防可能疾患の基本的実験室診断技術・精度管理手法を習得する。

【対象組織】
 WHOワクチン予防可能疾患実験室ネットワークに加盟しているNational Laboratory

【成果】
 1. 標準的手法のウイルス分離用培養細胞の維持管理、品質管理について理解し、自ら実施でき、当該実験室の中核スタッフとして機能すると共に他のスタッフへの技術指導を行う。
 2. 標準的手法のウイルス分離同定について理解し、自ら実践でき、当該実験室の中核スタッフとして機能すると共に、他のスタッフへの技術指導を行う。
 3. ウイルス実験室として必要なバイオセーフティ、実験室管理・施設運用等について再確認し、講義・実習・プレゼンテーションや他国参加者との情報交換を通じて日常業務の改善を図る。
 4. ワクチン予防可能疾患実験室診断における血清診断及び分子生物学的検査手法を理解し、当該実験室の中核スタッフとして自ら機能すると共に、他のスタッフに技術指導を実施する。
 5. 自国内外、中央と地方の感染症サーベイランスにおける実験室診断の役割について理解を深め、ポリオ根絶計画、麻疹風疹排除計画、世界的ワクチン戦略における各国実験室の役割と課題を再確認する。

【対象人材】
 WHOワクチン予防可能疾患実験室ネットワークに加盟しているNational Laboratoryにおいて、ワクチン予防可能疾患の実験室診断に従事しており、ウイルス診断に最低一年の経験を有し、当該業務の継続的遂行が予定される実験室スタッフ(研究員、技術員等)。

内容

1. 事前活動:
 ワクチン予防可能疾患流行状況、実験室診断の現状と問題点についてレポート作成

2. 本邦研修:
 以下の内容の講義、実習、視察、討議を行う。

(1) 標準的手法による培養細胞の維持管理・品質管理・ウイルス分離同定法の習得(講義および実習)

(2) ウイルス実験診断に必要とされるバイオセーフティ基準の理解(講義、実習、プレゼンテーション)

(3) ウイルス実験室および機器の維持管理と運用(講義と見学)

(4) ウイルス検査に必要とされる血清診断および遺伝子解析の基礎的手法の習得(講義と実習)

(5) 感染症サーベイランスシステムの講義、国内検査施設(地方衛生研究所等)およびワクチン製造施設等の視察(視察と討議)

(6) 当該国のワクチン予防可能疾患流行の現状、実験室診断の問題点および改善方法について研修参加者が発表し、他の研修参加者および国内外専門家と討議する(講義、プレゼンテーション、討議)

	2019/1/20~2019/2/9
本邦研修期間	
担当課題部	人間開発部
所管国内機関	JICA東京(人間開発)
関係省庁	厚生労働省
実施年度	2016~2018

主要協力機関 国立感染症研究所

特記事項及びホームページ 国立感染症研究所 (<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>)